



令和 6 年 11 月 / 発行：葛飾区都市整備部都市計画課（担当：田上・石塚） / 電話：03-5654-8382

東金町地区震災復興まちづくりフォローアップ訓練を実施しました！

9月21日（土）14時から「東金町地区 震災復興まちづくりフォローアップ訓練」を開催しました。

震災復興まちづくりフォローアップ訓練とは

葛飾区では、地区ごとに順次「震災復興まちづくり訓練」を実施しています。

「震災復興まちづくり訓練」は、大規模な震災が起きたことを想定し「どのように住まいを再建するか」「どんなまちに復興していきたいか」を地域の皆さんと区職員で話し合いながら、復興の進め方をまとめる机上訓練です。東金町地区では平成 26 年度に訓練を実施し、「東金町地区震災復興の進め方について」をまとめているのですが、訓練の開催から 10 年が経過していることから、改めて震災復興まちづくりフォローアップ訓練を実施し、「東金町地区震災復興の進め方について」の振り返りや被災後どのように復興を進めていくか、意見交換を行いました。

この「ふっこう訓練通信」では、フォローアップ訓練の様子をご紹介します。当日の資料や当日実施したアンケートにて頂いたご意見と区の考え方は、区のホームページでご覧いただけます。

[トップページ](#)>< [くらし・手続き](#)>< [安心・安全](#)>< [防災・国民保護](#)>< [震災復興まちづくり訓練について](#)

フォローアップ訓練の内容

（１）葛飾区の被害想定と地域協働復興を知ろう

- ・震度 6 弱から 6 強の首都直下地震が発生した時、葛飾区では、283 人の死者、4,589 棟の建物全壊や 5,137 棟の焼失、区内広範囲で液状化の発生など大きな被害が想定されています（※）。
- ・被災状況にもよりますが、ライフライン・インフラの復旧目安は、[電気：1 週間程度] [都市ガス：1～2 か月程度] [上下水道：1 か月以上] [通信：2 週間程度] [鉄道：1 か月以上] [道路：1 週間程度] となっています。
- ・地震発生時や復興時には、自助、共助、公助が相互に連携する必要があります。
- ・地域協働復興とは、地域の皆さんと行政が協働して復興に取り組む東京都の理念です。葛飾区では各町会・自治会が相互に被災生活に関する情報を共有し、話し合いを行う会のことを被災者生活支援連絡会と呼び、あらゆる分野の復興に向けて区などと連携することを想定しています。

※首都直下地震等による東京の被害想定（令和 4 年 5 月東京都公表、都心南部直下地震の場合）。焼失棟数は倒壊棟数を含まない。

（２）演習① 被災後の『住まい』の復興方針について話し合おう

参加者が（裏面右上図のような）3 つのグループに分かれ、被害状況や世帯設定が異なる被災者になりきり、「住まいの復興」について考え、被災後の仮住まいや自宅の再建方法、復興課題について意見交換をするグループワークを行いました。

主なご意見は裏面をご覧ください。



東金町地区震災復興の進め方について（平成 26 年発行）

16 名の方に
ご参会いただきました！



訓練当日の様子



演習①グループワークの様子

世帯設定と主な意見

<凡例>【基本情報】

①世帯構成 ②職業 ③建物 A:応急危険度判定 B:被害状況

【1班】東京 太郎(72)

- ①妻(70)
- ②無職 町会・自治会長
- ③戸建て住宅(木造2階)

築40年

A:危険
B:全壊



1班の主な意見

- 町会長であるが高齢なため、地区内に残れない可能性もある。

【2班】東京 次郎(65)

- ①父(85) 母(85)
妻(62) 娘(23)
- ②生鮮食品店経営
- ③店舗兼住宅(木造2階)

築30年

A:要注意
B:半壊



2班の主な意見

- 両親が高齢なためできるだけ在宅避難し、職を続けられる賃貸を借りて生活する。

【3班】東京 三郎(40)

- ①妻(40) 娘(8)
息子(2)
- ②会社員
- ③分譲マンション

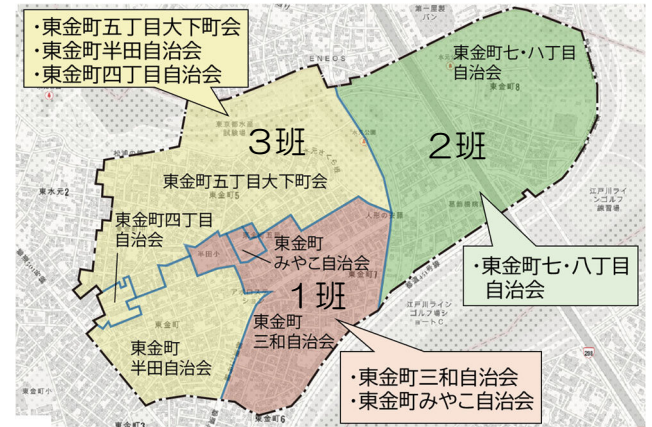
築10年

A:調査済み
B:一部損壊



3班の主な意見

- 住み慣れた家で在宅避難したいが子どもが心配。備蓄等の対策をしておく必要がある。



(3) 演習② まちの復興課題と資源、「東金町地区復興の進め方」を確認しよう

「東金町地区震災復興の進め方について」の内容を踏まえ、復興に向けて「普段からできること・できそうなこと」にはどんなことがあるか、意見交換をするグループワークを行いました。



演習②
グループワークの様子

(4) 発表

1班の主な意見

- 日頃のコミュニケーションにより、いざという時に共助できる関係性をつくる。

2班の主な意見

- 地域のイベントに積極的に参加する。カセットコンロ・発電機・水などを備蓄する。

3班の主な意見

- 集合住宅では、普段からのコミュニケーションが大事である。地域リーダーが地域の方々と話し合いをしやすいしておくべき。



発表の様子

(5) 解説 東京都立大学 中林 一樹 名誉教授

葛飾区は、液状化被害が起きやすい地盤です。液状化の被害は建物全壊よりも半壊やそれ以下の被害が圧倒的に多いため、被災後も自宅で続けて生活できることが多いですが、液状化により建物が傾くため、傾いた場所で生活を続けると三半規管に異常が生じ身体に影響を及ぼすことがあります。液状化の被害を受けないための事前対策を葛飾区は準備しています。事前に検討しておきましょう。



解説の様子

復興まちづくりで重要なポイントは、地域住民が被災後の仮住まいの期間も地区に残りどんなまちにしていきたいか議論し、目指す目標を地域住民と行政間で共有することです。地域全体で復興まちづくりについて議論し、協力するためには普段からの関係づくりが重要です。地域活動や自治会活動をさらに活発化させ、次世代を担う若者の関心が地域に集まるよう、SNS等を活用した周知などに取り組んでいただければと思います。

避難所に避難するまでが防災ではなく、その先にこそ本当に大事な防災があり、それが“復興”であるということを念頭に置いて、今後も復興まちづくりについて検討いただければと思います。